Ⅱ 教養教育について (獣医学部を除く)

1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

教養教育科目は、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

<教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

<修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

A 技法知科目

<教育目的>

「技法知科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

<修得すべき能力>

「技法知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1. 外国語科目

・英語

<教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

<修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

・英語以外の外国語

<教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 4級
 - ・実用フランス語技能検定試験 4級
 - ・ロシア語能力検定試験 4級
 - ・中国語検定試験 4級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 3級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK I (1~2級 140点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 5級
- (2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 3級
 - ・実用フランス語技能検定試験 3級
 - ・ロシア語能力検定試験 3級
 - ・中国語検定試験 3級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 4級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK II (3~6級 120点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 4級
- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

・日本語

<教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

<修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力, 読解力, 聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート, 小論文等の文章作成力, および, 討論, 口頭発表等の口頭表現力等, 日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

2. 健康・スポーツ科目

<教育目的>

「健康・スポーツ科目」は, スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り, コミュニケーション能力を高めるとともに, スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら, 生涯にわたりスポーツを实践する力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では, 学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを实践する能力

3. 情報科目

<教育目的>

「情報科目」は, 高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

<修得すべき能力>

「情報科目」では, 学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し, 目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し, 目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し, 適切な行動をとることができる能力

B 学問知科目

<教育目的>

「学問知科目」は, 学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって, 多様な学問領域への関心を高め, 自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり, どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに, 教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「学問知科目」では, 学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 知識の修得を通じて, 物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 知識の修得を通じて, 多様な価値観を受け入れることができる能力
- (3) 自然・人間・社会との関係において, 各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

1. 人文社会科学・教育学領域科目

<教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は, 人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から, 多様な文化の形成や意義, 社会の成り立ち, 教育や心理に関する諸問題を理解し, 教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では, 学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会, 教育, 心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会, 教育, 心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

2. 理学・工学領域科目

<教育目的>

「理学・工学領域科目」は, 理学及び工学における各学問分野の視点から, 自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び, 人間と自然とのかわりめぐるさまざまな問題を取り上げることによって, 教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

3. 農学領域科目

<教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

C 探究知科目

<教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

1. 環境科目

<教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

2. 地域関連科目

<教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

・地域科目

<教育目的>

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

D 実践知科目

<教育目的>

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

・地域課題演習科目

<教育目的>

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部の枠を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力